

研修会内容(平成28年度)



○プログラム

開催自治体：長野県飯田市

ー 7月28日 1日目 (会員研修) 飯田市役所 ー

●「平成28年熊本地震について」

- 【講演】 講演① 「熊本地震の被害の特徴」
常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏
- 講演② 「熊本地震支援活動から」
長野県飯田市危機管理課防災係長 後藤 武志 氏
- 講演③ 「熊本地震に学ぶ福祉避難所」
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部
コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏
- 【ディスカッション】
コーディネーター 常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏

●飯田市危機管理センター視察

ー 7月29日 2日目 (公開プログラム) 飯田市鼎文化センター ー

●パネルディスカッション

- 【基調講演】
「自助・共助・公助のバランスを考える」
常葉大学大学院環境防災研究科 教授 重川希志依 氏
- 【パネルディスカッション】
パネリスト 仙台市シルバー人材センター会員、仙台市生活再建支援員 佐々木重子 氏
長野県飯田市羽場地区自主防災会 会長 佐々木祥二 氏
福岡県北九州市危機管理室危機管理課災害対策係長 小田 晋 氏
- コーディネーター 常葉大学大学院環境防災研究科 教授 重川希志依 氏



丸山会長



牧野飯田市長

会員研修「平成28年熊本地震について」



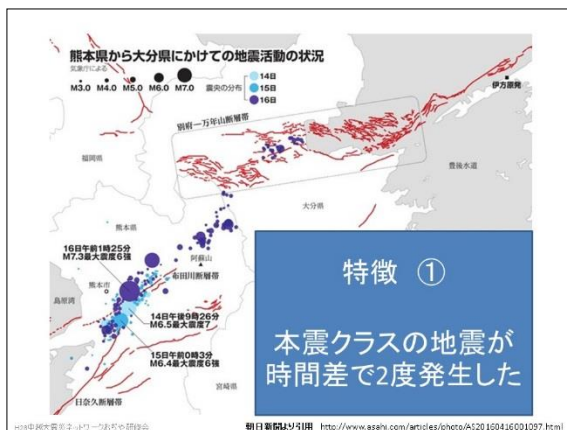
講演①「熊本地震の被害の特徴」

常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏

熊本地震の特徴や、被災地で感じたことについて講演していただきました。

主に住家の被害認定調査について、被災地ではどのような問題に直面したのか、解決すべき課題は何なのかを考えた結果、実際に常葉大学が行った支援についてご紹介いただきました。

また今回、被災地で過去の災害の教訓を生かすことができたのかを考えました。



③過去の災害の教訓は生かされたか？

避難所運営

- ・自治体職員による避難所運営
- ・市役所に避難者？
- ・避難者の役割は？

仮設住宅

- ・入居基準は明確か？
- ・半壊の入居は特例措置？

応援職員

- ・大量の応援職員が被災自治体に入る
- ・支援の調整はどのようにしていたのか？
- ・受援の問題か？
- ・本当に被災地に行く必要があったか？

朝日新聞より引用 <http://www.asahi.com/articles/PH20100416001097.html>

会員研修「平成28年熊本地震について」

講演②「熊本地震支援活動から」



長野県飯田市危機管理室 防災係長 後藤 武志 氏

大きな被害を受けた熊本県益城町へ、ネットワークおぢや先遣隊として情報収集、支援に入った後藤氏から、活動の報告と実際の現地の様子や感じたことについてお話をいただきました。

発災から10日が経過した現地で、住家の被害認定調査の開始に向けて奔走され、1週間でもり災証明の申請までできるように支援された後藤氏の報告からは、災害対応力の高さを感じました。



災害から
命
を守る！

熊本地震

被災自治体
支援活動から

～支援・受援のあり方とり災証明 について～

平成28年7月28日
中城大震災ネットワークおぢや研修会資料
飯田市危機管理室
防災係長 後藤武志
人と防災未来センター (Disaster Manager) (G04)
〒411-8501 静岡県静岡市清水区 上田町1-1
連絡先: 0537-810011 / 053-4781001

飯田市危機管理室
1,000km

1 熊本地震被災地支援派遣 (4/26～5/3 7泊8日)

4/26 (金)	4/27 (土)	4/28 (日)	4/29 (月)	4/30 (火)	5/1 (水)	5/2 (木)	5/3 (金)
10:00 出発式	8:30 出発	7:30 出発	7:30 出発	7:30 出発	7:30 出発	7:30 出発	8:30 出発
10:20 多岐SA着	8:50 益城町保健所	8:12 益城町	7:20 益城町	7:48 益城町	7:47 益城町	8:07 益城町	8:46 益城町
14:30 多岐SA着	9:30 益城町保健所	8:30 益城町	8:16 益城町	8:52 益城町	9:00 益城町	9:00 益城町	9:15 益城町
14:50 多岐SA着	12:35 益城町保健所	9:20 益城町	9:40 益城町	9:30 益城町	9:30 益城町	9:30 益城町	9:30 益城町
18:15 多岐SA着	17:45 益城町保健所	15:30 益城町	15:30 益城町	15:30 益城町	15:30 益城町	15:30 益城町	15:30 益城町
19:21 多岐SA着	19:00 益城町保健所	14:40 益城町	14:40 益城町	14:40 益城町	14:40 益城町	14:40 益城町	14:40 益城町
21:34 多岐SA着	21:00 益城町保健所	20:40 益城町	20:40 益城町	20:40 益城町	20:40 益城町	20:40 益城町	20:40 益城町
22:30 多岐SA着	21:30 益城町保健所	21:40 益城町	21:40 益城町	21:40 益城町	21:40 益城町	21:40 益城町	21:40 益城町
23:00 多岐SA着	21:30 益城町保健所	22:30 益城町	22:30 益城町	22:30 益城町	22:30 益城町	22:30 益城町	22:30 益城町

10 益城町5日目 [5/1 (日)]

- 県職員の応援を受けてり災証明書の申請受付を開始。

会員研修「平成28年熊本地震について」



講演③「熊本地震に学ぶ福祉避難所」

跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 教授 鍵屋 一 氏

熊本地震での被害を基に、災害時の福祉避難所の状況や、役割について東日本大震災の教訓を交えながら講演をしていただきました。

「避難した被災者が元の生活以上に戻ること」という福祉避難所の目的を果たすため、未然の備えが大切であり、中でも、各福祉施設のBCP(事業継続計画)作成が避難所運営では大きく役立つということを重点的に、お話しいただきました。



平成28年4月14日、16日 熊本大分地震
最大震度7(熊本県益城町)
死者: 49名、重傷者: 345名 (消防庁: H28.5.31)
最大避難者: 183,882名 震災関連死: 20名(熊本県: H28.5.30)



平成23年3月11日 東日本大震災
死者: 19,225名 } 計: 21,839名
行方不明: 2,614名 } (消防庁: H27.3.9)
避難者: 219,618名 震災関連死: 3,194名 復興庁: H27.4



釜石市輪住居地区 輪住居地区 西石地区

誰が逃げろと伝えたか？

- ・第1位 101人 家族・同居者
- ・第2位 97人 近所、友人
- ・第3位 74人 福祉関係者

内閣府「避難に関する総合的対策の推進に関する実態調査結果報告書」(東日本大震災時、315人、複数回答あり)2013年

会員研修

【ディスカッション・質疑応答】

「平成28年熊本地震について」

パネリスト 飯田市危機管理室防災係 係長 後藤 武志 氏
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学部
教授 鍵屋 一 氏
コーディネーター 常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏



左:飯田市 後藤氏
右:跡見学園 鍵屋氏

前段で講演いただいた内容を基に、質疑応答、ディスカッションを行いました。聴講された会員の方々は、担当者レベルで聞いてみたいことなどを質問され、課題や解決策について活発な話し合いが行われました。



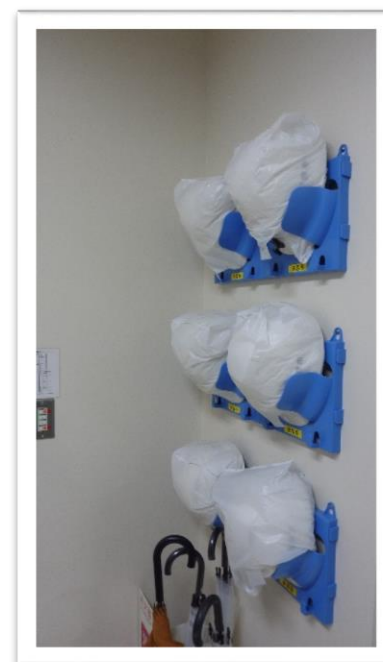
会員研修「視察研修」

長野県飯田市危機管理センター



耐災害性・拡張性・機能性を重視した、飯田市危機管理センターを見学しました。

センターには常設のオペレーションルームが備えられており、大規模災害時には隣接する議場への拡張も可能となっています。また、誰が最初に駆け付けても対応できるようにファーストミッションボックスが設置されるなど、災害時を想定した様々な工夫がされていました。



公開プログラム

【基調講演】

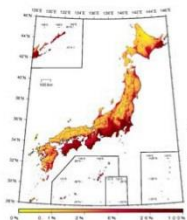
「自助・共助・公助のバランスを考える」

■ 常葉大学大学院環境防災研究科 教授 重川 希志依 氏

これまで起きた災害を振り返り、①生命・財産を守ること、②災害後の暮らし繋いでいくこと、③地域・暮らしの再建・復興という3つの防災目的を果たすには自助・共助・公助がそれぞれどれだけの力を持っていて、何が重要なのか。ということをお話しいただき、後のディスカッションに向けて問題提供をしていただきました。

1. 自然現象の理解

地震学、火山学、気象学など



今後30年間に 震度6弱以上の揺れに見舞われる確率
(地震調査研究推進本部)

3

2. 被害の抑止策

耐震化、防潮堤、安全な土地利用など



4



公開プログラム 【パネルディスカッション】



パネリスト 仙台市シルバー人材センター会員、生活再建支援員

佐々木 重子 氏

飯田市羽場地区自主防災会 会長 佐々木 祥二 氏

北九州市危機管理室危機管理課災害対策係 係長 小田 晋 氏

コーディネーター 常葉大学大学院環境防災研究科 教授 重川 希志依 氏



公開プログラム 【パネルディスカッション】



佐々木 重子 氏
東日本大震災時には被災者現状調査員として活躍。「一人一人、被災された方が自立されていくことが一番の喜びです。」



佐々木 祥二 氏
羽場地区の防災活動に取り組んでいる。「訓練、反省、反映、訓練と継続的に進め、安心・安全の住みよい羽場を目指します。」



小田 晋 氏
熊本地震では物資支援・人的支援の対応に当たる。「熊本地震の一刻も早い復旧・復興を目指して支援を続けます。」